

血管診療技師認定試験

症例リストおよび
レポート作成にあたっての
注意点

症例リスト・レポート・症例証明 提出についての変更点

- ・ 2024年度から症例リスト・レポート・症例証明に不備があった場合の通達、再提出はなくなっています。
- ・ そのかわりに、間違っている（不備のある）項目・内容が「合否判定」に影響します。

症例証明のコピー 提出にあたっての注意点

4. 症例証明のコピー

検査報告用紙のコピーや、手術表のコピーなど、症例リストで提出した経験を証明する書類を100例分提出してください。その際、所属施設の規定に従い、申請者の責任で書類提出の許可を得てください。症例証明のコピーは、本試験以外に使用することなく、受験資格確認後に申請者に返却します。

症例証明には実施日時および実施者名が明記されていること。患者の個人情報はマスクしてください。

書類はすべてタテ向きにそろえ、右上に通し番号を記載してください。

個人情報が残っているかどうかは
厳しくチェックされます。

マスクする内容　：①ID，　②名前，　③生年月日

マスク不要な内容：①年齢，　②性別，　③検査日，　④施設名

※画像に個人情報が残っているかどうかも
チェックしてください。

個人情報の削除はここまでチェックを

~~血管太郎~~

名前が読み取れる消し方は×

×

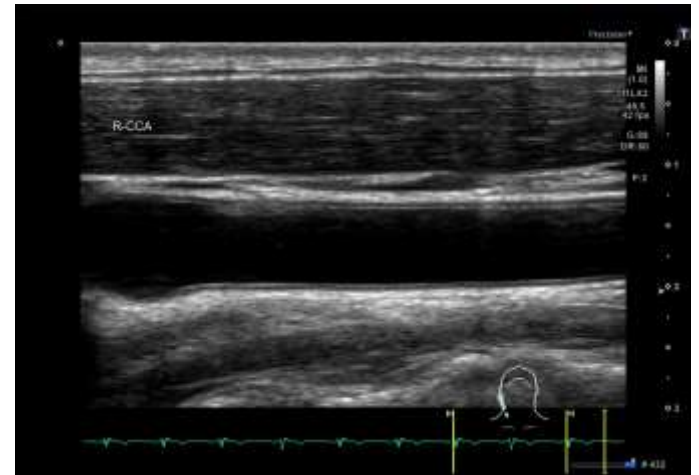


画像に名前，IDが残らないよう



確実に塗りつぶしてください

○

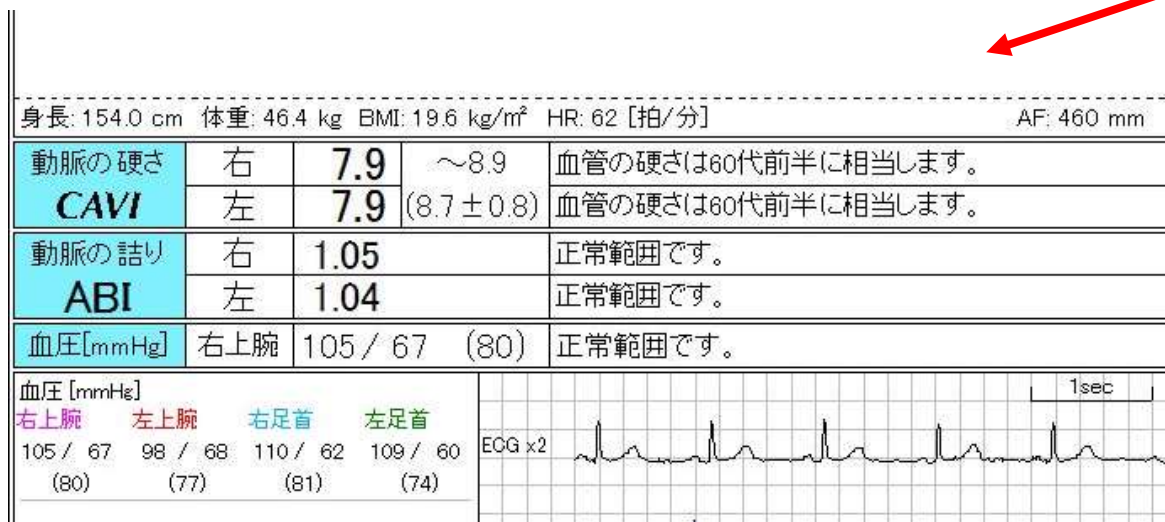


トリミングするか塗りつぶしを

その他，症例証明のコピー提出時に 確認しておいて欲しい項目

自身関わったことを証明する必要があります。
検査の場合は，**自身の名前**を記入しておいてください。
CTなどの「検査依頼書」を提出している場合は，
自身の名前と指導医のサインを記入してください。
「カルテ内容」を提出している場合は，**自身の名前と
指導医のサイン**を記入してください。

空白部分にサインを記載



症例リスト作成 にあたっての注意点

2. 症例リスト

症例リスト作成の手引き（PDF）、症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点（PDF）をよくご覧の上、自験例100例のリスト（20例×5枚）を作成し、診療の指導的立場にある医師の署名捺印を受けてください。指導的立場にある医師は、認定機構構成5学会（日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会、日本動脈硬化学会、日本フットケア・足病医学会*）のいずれかの会員でなければなりません。

2023年度より、症例リストの様式を改訂いたしました。

症例リスト作成の手引き（PDF）をよくご確認の上、提出書類を作成してください。

* 2025年4月より日本フットケア・足病医学会が構成学会に加わりました。

[📄 症例リスト作成の手引き（PDF）](#)

[📄 症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点（PDF）](#)

血管診療技師認定試験 症例リスト作成の手引き

症例リストは、血管に関する総経験数 100 件とする（100 件以上は記載不要）。

検査、検査介助、治療、治療介助は、1 患者 1 項目について 1 件の記載とする。ただし医師の指示のもと自ら実施する治療手技については 1 患者 10 件まで経験件数としてカウントできる（詳細は理学療法士の経験要件参照）。

ここでいうところの「血管」とはリンパ管を含む。また大動静脈、四肢動静脈、頸動脈、腎動脈など、臓器外にあると思われる血管は含まれるが、脳、心臓などの臓器内にあると考えられる血管の検査、治療は含まれない。

症例リストには経験 100 件を記入し、実施年月日、実施コード（検査→1、検査介助→2、治療→3、治療介助→4、見学→5、実践教室→6）を記入すること。またその経験を証明する指導医師の捺印と医師が会員である学会の会員番号を記入すること。他施設における経験の場合、当該施設の指導医師の捺印と医師が会員である学会の会員番号を記入すること。指導医師は、認定機構構成 5 学会（日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会、日本動脈硬化学会、日本フットケア・足病医学会）のいずれかの会員でなければならない。指導医について、雇用形態は指定しない。非常勤の医師であっても、提出所見の内容を確認いただき、内容に対して責任を持っていただければ、指導医として認める。

症例リストとあわせて、経験 100 件を証明する症例証明（所見用紙、手術記録、カルテなど）のコピーを提出する。症例証明には、症例リストと同じ通し番号を記入し、番号順に綴じること。縮小コピーなどしてなるべく 1 件 A4 用紙 1 枚とする。

個人情報に関しては各施設基準に準じマスクすること。患者氏名、ID、生年月日のマスクは必須（画像内含む）。

症例証明は、自身関わったことを証明する必要がある。検査の場合は、自身の名前を記入すること。CT などの検査依頼書を提出している場合は、自身の名前と指導医のサインを記入すること。カルテ内容を提出している場合は自身の名前と指導医のサインを記入すること。

◆実施コードについて

1. 「検査実施件数」とは、医師の指示により血管に関する検査を自ら実施した件数、
2. 「検査介助件数」とは、医師または他の医療職者による検査を介助した件数、
3. 「治療件数」とは、医師の指示による血管に関する治療を自ら実施した件数、
4. 「治療介助件数」とは、医師の行う治療を介助した件数である。
5. 各国家資格で認められない検査・治療、ないし所属施設で経験不可能な事柄については「見学」も認める。ただし見学は1治療・検査の経験につき1件を限度とし、最大40件とする。
6. 「実践教室件数」とは、看護師向けのワークショップで行った症例の件数である。
ただし現在認められているのは、日本フットケア学会時の実践教室で、かつCVT認定機構が認めたものに限る。

職種によって必要コード数が変わります。
必ず記入上の注意を確認してください。

◆経験症例は複数疾患、複数病態、複数実施コードを含むことが望ましい。

血管診療技師認定試験受験のための基礎資格には、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、看護師、准看護師、理学療法士があり、各職種に許された医療行為の範囲が異なるため、資格による経験要件を以下のように定める。

■臨床検査技師

検査実施件数 60 件以上必要。うち、超音波検査（MR、IVUS は除く）を 30 件以上、生理学的あるいは機能的診断法（ABI/PWV、TBI、SPP、TcPO₂、運動負荷後 ABI、跛行距離測定、サーモグラフィー、指尖容積脈波、FMD、APG など）は 2 検査項目以上を計 20 件以上含むものとする。検査介助、治療介助経験は必須ではない。総数 100 件。

■診療放射線技師

検査実施件数 60 件以上必要。うち、超音波検査（MR、IVUS は除く）を 30 件以上、放射線使用検査（CTA など）あるいは MRA を 20 件以上含むものとする。検査介助、治療介助経験は必須ではない。総数 100 件。

■臨床工学技士

検査介助件数ないし治療介助件数 30 件以上を必要とする。総数 100 件。

■理学療法士

運動療法や理学療法の治療実施件数は最低 60 件以上を必要とし、その他治療介助、検査介助、見学を含め総数 100 件。100 件全てが運動療法や理学療法の治療実施件数であっても差し支えない。

運動療法や理学療法の治療実施件数は、医師の指示のもと自ら実施した治療手技について、1 患者につき 1 件の経験として使用できる。しかし、1 患者に対して複数回の治療経験がある場合は、レポート^{注)}に複数回の詳細を記載し提出することで 1 患者あたり最大 10 件まで経験件数としてカウントできる。

(例 閉塞性動脈硬化症患者 6 名に対し、それぞれ 10 回ずつ治療経験がある場合、レポートを 6 通作成すれば運動療法や理学療法の治療実施件数は 60 件となる。)

その他治療介助、検査介助、見学においては、1 患者に対して複数回の治療介助等であっても 1 患者につき 1 件の経験となる。

^{注)} 複数回の治療経験をまとめたレポートは、「④行った検査や治療、介助の内容」に複数回の治療日及びそれぞれの治療の内容を明記し、「⑤あなたが患者にどう関わったか、あるいは患者に関わったことにより印象に残ったこと、治療の考察」では特に治療前後の変化に関する記載を含める。理学的治療の場合、レポートを提出した場合はカルテコピー等は不要である。同一症例について複数の治療者が関わった場合、同一日同一患者の経験の共有は認めない。レポートの内容も受験資格として評価され、内容不備と判断されれば、受験資格として認めない場合もある。

■看護師および准看護師

経験内容の内訳は問わない。総数 100 件。

2025年度 第19回血管診療技師認定試験 25- 検査実施、検査介助、治療実施、治療介助の症例リスト

1枚目/5枚

※CVT認定機構WEBサイトに掲載されている「症例リスト作成の手引き」「症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点」(PDF)をよくお読みの上、ご記載下さい。

受験者氏名： _____

職種： 0

上記のものが以下を行ったことを証明いたします。

指導医所属施設、所属部署、役職： _____

指導医氏名： _____ 印

指導医所属学会（会員番号）

日本血管外科学会（ ） 日本脈管学会（ ） 日本静脈学会（ ）

日本動脈硬化学会（ ） 日本フットケア・足病医学会（ ）

通し 番号	実施年月日	実施 コード※	検査、治療 または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は 原疾患診断名と同じでも可
1					

**経験症例は複数疾患，複数病態，複数
実施コードを含むことが望ましい。**

通し 番号	実施年月日	実 施 コード※	検 査、治 療 または介助内容
1			
2			



検査・治療の
実施年月日を記入してください。
理学療法士の場合は複数回の治療を行った
年月日を1回ずつ記載してください。

実施 コード※	検査、治療 または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断 ※疑いでも	実施コード 1. 検査 2. 検査介助 3. 治療 4. 治療介助 5. 見学 6. 実践教室

右の実施コードを記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・各職種によって必要コード数が違うので、必ず事前確認を
- ・1.検査は、「単独で行っている」検査を指します。
- ・放射線技師の場合、検査と検査介助が混乱しないように。

実 施 コード※	検査、治療 または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可



具体的な内容を記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・エコーだけだと内容が不明なので，下肢動脈エコーや大動脈エコーなど，部位を記載してください。
- ・CT，MRIについても下肢CTや腹部MRIなど記載します。
- ・心臓カテーテル検査は対象になりません。「大動脈造影」など血管領域の検査として記載してください。

(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は 原疾患診断名と同じでも可



「(検査を行う契機となった) 原疾患診断名」を記載する

「糖尿病」や「閉塞性動脈硬化症疑い」など、検査を行う
 根拠となった臨床病名を入れてください。

「〇〇術後」のみでは不十分です。必ず原疾患名を入れる
 こと。

必ず検査後に得た「血管疾患としての検査診断名」を

(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は 原疾患診断名と同じでも可

「検査による診断名、所見」を記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・ 検査の場合，検査依頼時の診断名ではなく，検査後の診断名を記載します。
- ・ 例えば頸動脈エコー検査時の確定診断名に，糖尿病や脳梗塞などは検査後の診断名として不適切です。
あくまで血管疾患としての記載になりますので，頸動脈エコーに異常がなければ「正常」という記載になります。
- ・ 必ず異常例を含めてください。
- ・ 治療の場合は「原疾患診断名」と同じになります。

必ず検査後に得た「血管疾患としての検査診断名」を

(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は 原疾患診断名と同じでも可

「検査による診断名、所見」を記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・ **ABIやSPP**などで、数値上正常でも「閉塞性動脈硬化症疑い」といった記載が見られます。数値が正常であっても波形から動脈硬化症を疑った場合はよいですが、**波形、数値とも正常にもかかわらず「疑い」がつくことはありません。**減点対象になりますので、数値と波形を総合的に判断して診断名を記載してください。
- ・ 心臓カテーテル検査では、大動脈造影がなければ不可、造影していて異常がなければ「正常」になります。
- ・ **頭蓋内動脈、冠動脈、門脈など臓器内血管は対象外**です。

レポート作成 にあたっての注意点

3. レポート

症例リストに記載した症例のうち、代表となる5例についてレポートを作成してください。ただし正常例は除く。

必要な項目としては、①年齢、②性別、③検査による診断名、所見、④行った検査や治療、介助の内容、⑤あなたが患者にどう関わったか、あるいは患者に関わったことにより印象に残ったこと、治療の考察、⑥その他記載しておきたいアピールポイント（必須ではない）

上記①～⑥について所定の用紙に記載してください。

同一疾患については2例まで可としますが、別内容にしてください。

理学療法士の場合は3例以上同一疾患でも可。1患者に対して複数回の治療経験がある場合は、レポートに複数回の詳細を記載し提出することで1患者あたり最大10件まで経験件数としてカウントできます。レポートは所定の用紙を使用し1患者につき1枚にまとめ、6枚以上になる場合はコピーして記載してください。

2025年度 第19回血管診療技師認定試験 レポート

25-

1枚目/5枚

※CVT認定機構WEBサイトに掲載されている「症例リスト作成の手引き」「症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点」(PDF)をよくお読みの上、ご記載下さい。

※正常例は除く。同一疾患は2例まで可としますが、別内容にして下さい。

※理学療法士の場合は3例以上同一疾患でも可。1患者に対して複数回の治療経験がある場合は、1患者につき1枚のレポートにまとめる(10回の治療までまとめて記載可)。6枚以上になる場合はコピーして記載すること。

受験者氏名： _____

職種 : _____ 0

指導医サイン： _____ 印

	症例リストNo.	
①	年齢	
②	性別	
③	検査による診断名、所見(疑いでも可) ※治療・治療介助の場合は原疾患診断名と同じでも可	
④	行った検査や治療、介助の内容 ※理学療法士は治療年月日とその内容を各回ごとに記して下さい(特に複数回治療経験のまとめの場合)	
⑤	あなたが患者にどう関わったか あるいは患者に関わったことにより 印象に残ったこと、治療の考察を記して下さい ※理学療法士の複数回治療経験のまとめでは、治療前後の変化に関する記載を含める	
⑥	その他 記載しておきたいアピールポイント (必須ではない)	

〈レポート〉

	症例リストNo.	100例の症例リストに対応した番号を記載
①	年齢	患者の年齢を記載
②	性別	患者の性別を記載
③	検査による診断名、所見（疑いでも可） ※治療・治療介助の場合は原疾患診断名と同じでも可	症例リストに記載した診断名を記載
④	行った検査や治療、介助の内容 ※理学療法士は治療年月日とその内容を各回ごとに記してください（特に複数回治療経験のまとめの場合）	

詳細な記載は不要です。どのようなことを行ったかを簡潔に記載してください。

ただし理学療法士の複数回治療の場合は年月日を記載し、それぞれの治療の内容を記してください。

血管疾患でない症例は選択しないように

（ベーカー嚢胞や門脈圧亢進症などは対象外です）。

⑤

あなたが患者にどう関わったか
あるいは患者に関わったことにより
印象に残ったこと、治療の考察を記してくだ
さい

※理学療法士の複数回治療経験のまとめで
は、治療前後の変化に関する記載を含める



患者に関わった内容，患者に関わったことにより印象に
残ったこと，5例のレポートに選んだ理由について
詳細に記載してください。

深部静脈血栓症を想定

<p>⑤ あなたが患者にどう関わったか あるいは患者に関わったことにより 印象に残ったこと、治療の考察を記してください</p> <p>※理学療法士の複数回治療経験のまとめ では、治療前後の変化に関する記載を含める</p>	<p>例：右下肢の腫脹でエコー検査依頼あり、大腿部以遠の発赤腫脹あり、右下腿 Homans徴候(+). Dダイマー$2.5\mu\text{g/dl}$と高値. 下肢静脈エコーにて右大腿静脈からひらめ静脈にかけて血栓を認めた. また、右大腿静脈中枢部には浮遊性血栓を認め、肺血栓塞栓症のリスクが高いと判断した. 主治医に直接連絡したところ、同日 IVCフィルター留置の方針となった. エコー検査が早急な治療方針決定に役立った症例だった.</p>
--	---

ダメな例：

- ・ 静脈エコーを行った.
- ・ 静脈エコーで浮遊性血栓を認めた.
- ・ 興味深い症例だった.

など

⑥	その他 記載しておきたいアピールポイント (必須ではない)	
---	-------------------------------------	--



検査時の工夫点や多職種連携など，アピールするポイントがあれば記載してください。

例：今回，多職種連携がうまくいきました。
今後CVTを取得することに自信がつけました。

- ・ 以上，症例リストおよびレポート作成についての主な注意点を解説しました。
- ・ 2024年度からは再提出がなくなった代わりに，**合否判定要件に加わっています。**
- ・ **写真の個人情報消し忘れ**が非常に多いです。
また，**不十分な消し方**をされている方も多いです。
- ・ **間違いが多いのは，症例リストの実施コード，診断名，1症例1検査を複数検査として提出，**です。
- ・ HPにある症例リスト作成の際の注意事項をよく読んで提出してください。